

「庄内スマート・テロワール豊穰感謝祭 2025」開催要領

～ 庄内スマート・テロワールの過去 10 年の歩みと新たな 10 年の挑戦 ～

1. 趣 旨

スマート・テロワールとは、カルビー株式会社 元会長・社長 故松尾雅彦氏が提唱した農村の未来像であり、山形大学では耕畜連携・農工連携・工商連携、そして地消地産を通して、食と農に関する経済を地域内で循環させ、完結できる経済圏を「持続可能な循環型農村経済圏」と定義し、スマート・テロワールと呼んでいます。山形大学農学部はスマート・テロワール構想の実現を目指し、故松尾雅彦氏の支援のもと、2016 年から 5 年間の寄附講座を開始しました。寄附講座終了後は外部資金などを獲得し、この活動を継続して 10 年目を迎えました。これまでの成果としては、純庄内産豚肉を用いたハムやソーセージなどの豚肉加工品、庄内産ダイズやコムギを用いた味噌や納豆、麦切りや中華麺、パスタなど、10 品目を超える加工食品をスマート・テロワールブランドとして上市してきました。

一方、近年においては、ウクライナへの軍事進攻の長期化や中東情勢の悪化、新型コロナウイルス感染症のパンデミックや豚熱・鶏インフルエンザなどの家畜伝染病の発生、気候変動による干ばつや豪雨、洪水などの自然災害の多発、また、“令和のコメ騒動”が起こり、唯一 100%近くで自給率を維持してきたコメについても、未だに市場での不足感は続いています。さらにトランプ関税の合意によって、今後の経済への影響も懸念されており、このような世界的に不確実性が高まっている時代だからこそ、スマート・テロワール構想の実現が求められているのではないのでしょうか。そこで、スマート・テロワール構想の実現に向けた取組みの 10 年を振り返り、その意義について再確認するとともに、10 年先の庄内の将来像を描くためのシンポジウムと試食会を開催いたします。

2. 主 催 山形大学アグリフードシステム先端研究センター(YAAS)
庄内スマート・テロワール構築協議会

3. 日 時 令和7年11月26日(水)13:30～17:00

4. 会 場 グランド エル・サン(山形県鶴岡市東原町17-7)

5. 内 容

1) 第 1 部

シンポジウム(会場：クリスタルホール)

開会の挨拶 13:30～13:40
国立大学法人山形大学農学部 学部長 渡部 徹 氏

基調講演 13:40～14:30
「日本で最も美しい村」連合がめざす農山漁村の未来
NPO 法人「日本で最も美しい村」連合 理事・副会長 二宮 かおる 氏

行政施策の紹介 14:30～15:00
地産地消・地域資源活用価値創出に関する施策の紹介
東北農政局農村振興部都市農村交流課 課長 馬峰 純一 氏

《 休 憩 （10 分） 》

『スマート・テロワール』プロジェクトの過去 10 年間の活動と、今後 10 年に向けた計画

『スマート・テロワール』の 10 年の歩みを振り返る 15:10～15:30

山形大学 名誉教授 浦川 修司 氏

『スマート・テロワール』における耕畜連携の意義と地産地消の可能性 15:30～15:50

山形大学農学部 准教授 栗原 良樹 氏

庄内の未来に向けた『スマート・テロワール』の新たな 10 年の挑戦 15:50～16:05

山形大学 名誉教授 浦川 修司 氏

《 試食会場の設置（5 分） 》

2) 第 2 部 （会場：クリスタルホール）

『スマート・テロワール』構想から産まれた食材の試食会 16:10～17:00

～これまでに上市したスマート・テロワールブランドの食材を活用した美味しい料理や
本年度に上市を目指す新たなラインナップをご試食いただきながら、
皆さまと一緒に庄内の未来像を考えましょう！～

3) その他

会場内に山形大学産学連携研究員（コーディネーター）による産学連携相談ブースを 設置
します。共同研究等をご検討の場合など、お気軽にご相談下さい。

問い合わせ先：「庄内スマート・テロワール」豊穰感謝祭 2025 事務局
（山形大学鶴岡キャンパス事務部総務課 研究・社会共創室）

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23

Tel : 0235-28-2834, Fax : 0235-28-2812

E-mail : yu-nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

お申込み方法については、添付のチラシをご覧ください

締め切り：令和 7 年 1 1 月 1 9 日（水）

本シンポジウムは環境研究総合推進費及び

JRA 日本中央競馬会助成事業を活用して開催いたします。